令和５年１０月１６日

行 政 視 察 報 告 書

委員会名（会派名）	市民厚生常任委員会	報告者	藤井秀人
視察日程	令和５年１０月１１日～１３日		
調 査 事 項 及び 視 察 地	① シェルターインクルーシブプレイス コパル		
	② ぎゃらりーら・ら・ら／やまがたアートサポートセンターら・ら・ら		
	③ 福島県福島市		
参加議員（委員）	タナカ・キン、藤井秀人、中山眞二、渡邉雄三、宮路敏裕、田中淑子、高橋妙子		

①

【調査目的・内容】

令和４年４月１８日にオープンした、山形市のシェルターインクルーシブプレイスコパルの視察を行った。

一個人に寄り添った施設を目指し、性別や年齢、人種・国籍の違い、障がいの有無など、異なる背景や特性を持つ子どもたちがともに遊べる遊び場であるとの事。

全国的にも注目されている施設であり今回視察をさせていただいた。

【所感】

館長の話では、市内で２ヶ所目の児童遊戯施設であり、時間をかけて課題を検討された部分が随所に見受けられた。

オープン以来、すでに２５万人の来場者があり、１ヶ月平均１万５千人も来場されるとの事。全国からも視察が月に１２０件もあり、４２都道府県２１ヶ国から来場されている。また、著名な方々も見学に来られていることから考えると、施設の素晴らしさがわかる。

「インクルーシブ」という概念のもと、子どもたちにとって安心安全であり、自然（野山）をイメージした遊びの場での体験を重視したことは多くの来場者数につながっている。

１番人気は滑り台であるとの事。

周りには大学、小・中学校、障がい施設もあり、各学校との連携も行っている。

周りの山間の景色もマッチしており、素晴らしい施設であったと感じた。

②

【調査目的・内容】

ぎゃらりーら・ら・ら／やまがたアートサポートセンターら・ら・らを視察に伺った。

社会福祉法人愛泉会が２０１１年に障がいのある人の作品を展示する場「ぎゃらりーら・ら・ら」を開設した。２０１６年からは山形県の事業として「やまがた障がい者芸術活動推進センター」を立ち上げ、県内の障がいのある人の芸術活動の普及支援に取り組んできた。２０２０年からは、国の事業として、障がい者芸術文化活動普及支援事業「やまがたアートサポートセンターら・ら・ら」として取り組んでいる。

【所感】

障害のある方の芸術文化活動のさらなる充実のため、５つの事業に取り組んでいる。

①表現への想いをつなぐため、相談支援を行っている。

②「気づき」の場をつくるため、人材育成を行っている。

③人と人、活動と活動をつなぐ関係者のネットワークづくりを行っている。

④表現と交流の場をつくるため、発表等の機会の創出を行っている。

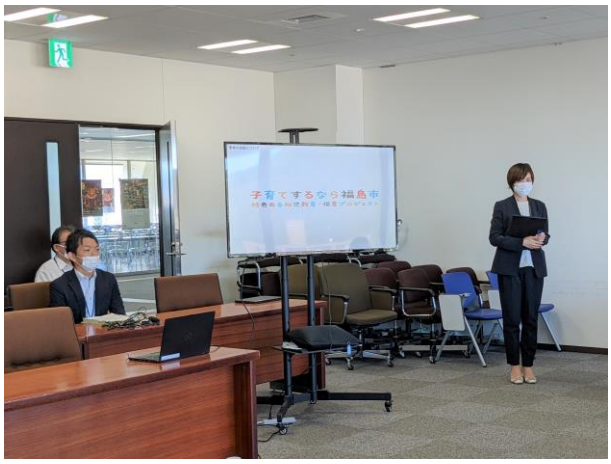
⑤活動を見つけ伝えるため、情報収集・発信を行っている。

	障害のある方の芸術文化活動のための架け橋になるという考えのもと、『つくる、つなぐ、つたえるをまあるくつないでいます。』というキャッチフレーズを掲げて取り組んでいる。 山形県内では、４地区で巡回展を行っており、認知度も高まっている。県外からの作品応募もあり、２５０点～３００点の応募がある。その作品の背景を説明書きするサポートも行い、言語化のお手伝いをすることで作品の理解度を深める、寄り添う対応を行っている。 また、福祉事業所の参加も１０ヶ所に増え、芸術工科大学との連携も行っており、専門分野の協力もいただいている。 今後も行政との一体的な取り組みが重要であると感じられた。
③	**【調査目的・内容】** 福島市の特色ある幼児教育・保育プロジェクトを視察した。 プロジェクトの内容は、私立幼稚園・保育施設に通う子どもたちの創造性や感性を育むため、個性豊かで魅力ある取り組みを実施している私立の幼稚園・保育施設を支援・紹介する事業である。対象となるプロジェクトとは主に5つの事業を対象としている。 １. 共生社会を目指す教育・保育 ２. 自然環境を生かした教育・保育 ３. 心身の健康増進及び身体機能向上を目指す教育・保育 ４. 芸術・文化・伝統に関する教育・保育 ５. ICT の活用、地域との連携事業などその他特色ある教育・保育と認められる事業
	【所感】 まず、支援内容の補助額は１～３年目事業は事業費の２分の１補助（上限１２０万円）、４年目以降は事業継続に必要な経費の２分の１補助（上限３０万円）となっており、令和２年より事業を開始し、福島市内全８０園の中の公立を除く私立施設６７ヶ所を対象に実施を開始したところ、２２ヶ所で事業を行っている。 個性豊かで魅力ある取り組みとして、農業体験、サッカー、和太鼓、自然とのふれあい、アート教育など、着実に成果としてあらわれている。 また、様々な媒体を通してプロジェクトを紹介している。福島市のホームページへ事業内容を掲載、PR 動画を作成し、デジタルサイネージ・YouTube 等を通して発信。パンフレットを作成し、イベント等で配布など積極的に行っている。 事業のハードルが高い部分もあり、実施施設がなかなか広がっていない問題点もあるとの事。 成果が出るまで時間がかかるため、より持続的な取り組みになるよう粘り強い対応が求められていると感じられた。

令和５年１０月１６日

【視察の様子】

① シェルターインクルーシブプレイス コパル

② ぎゃらりーら・ら・ら／やまがたアートサポートセンターら・ら・ら

③ 福島県福島市